

## 山形県支部

### 山形県内の農業経営の現状と課題～戦略的産業創出に向けた取り組み～

平成 20 年度の中小企業対策関連施策では、顕在化する都市と地方の格差拡大に対応し、農業と商工業との連携によって生産性を上げる「農商工連携」に注目が集まっている。私たち中小企業診断士と関わりの深い商工業と地域経済を支える農業を有機的に連携させ、新たな地域活性化の柱として位置づけている。本年はこれらの関連施策を実行段階に移すため、農商工連携のための法案の策定、中小企業の新規立地促進のための低利融資の創設など、具体的施策が経済産業省と農林水産省両省の連携により実現されていくこととなっている。これは、政府全体で策定する「地方再生のための総合的な戦略」に反映する期間限定の臨時措置法によって実現されていくことになる。このようななかで、日本農業も大きな変換期を迎えていることは、多くの方が認識している現状である。幸い山形県は、農業県として高く評価されており、農業分野での取り組みは先進的なものが多いと考えられている。

そこで、(社) 中小企業診断協会山形県支部では、平成 19 年度の調査研究事業のテーマを「山形県内の農業経営の現状と課題～戦略的産業創出に向けた取り組み～」として取り上げ、調査研究委員会で調査を行った。日本経済活性化に大きな影響を与える農業分野をより理解し、これからの「農商工連携」推進に役立つものとして報告する。

本報告は、「県内農業の現状」「農業経営の現状」「首都圏チャンネル調査」「提言」の 4 章で構成されている。山形農業の現状把握では、山形県農業の特色として庄内地域の米と内陸での果樹といった二大生産基地となっている現状と、環境にやさしい農業の姿や県内アグリビジネスの状況を把握した。現在注目されている認定農家や多様な農業の姿は、11 社のヒアリング調査のなかでも特徴的な姿として積極的な農業経営の実態を報告している。特に米価が下落しているなかで、販売力を持った農家の強さが明確になっている。

首都圏チャンネル調査、農業関連企業・機関の動向等を取り上げることにより、調査対象となった農業経営体からも関心を持っていただけるように配慮した。オイシックス株式会社は山形県産品も数多く扱っており、今後の県産品販売戦略を構築する上で、非常に有効なものとなると考えられる。流通という切り口からは、新たな協力体制への可能性として J A との関わりも含めた視点からの考察を深め、中小企業診断士としての提言までをとりまとめ、報告書とした。